

# 知的障がいのある児童生徒への「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた指導の在り方について 「3つの観点を基にした授業改善」

研究協力校：北海道札幌伏見支援学校

## 現状

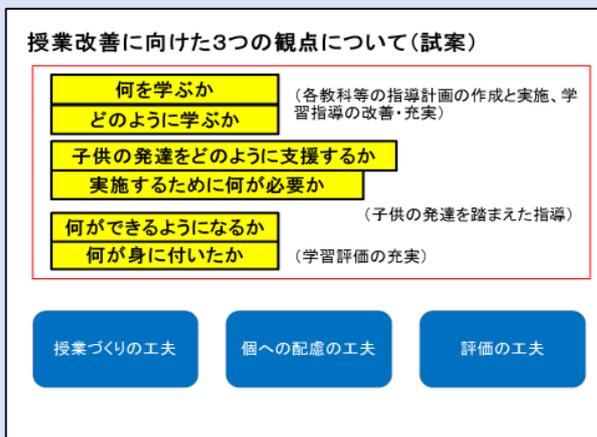
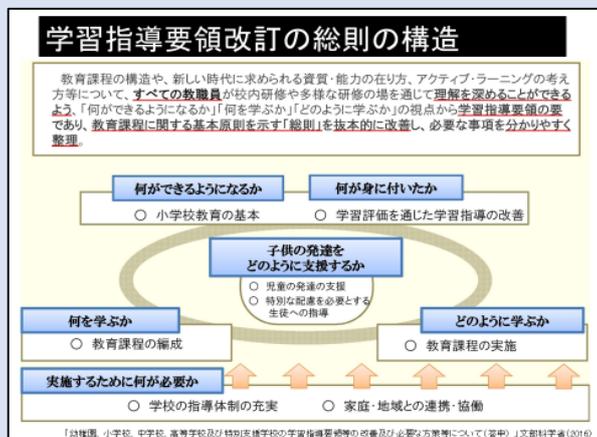
- ・知的障がい特別支援学校の在籍児童生徒数が増加しており、特に高等支援学校の在籍者数が増加している傾向にある。
- ・自閉症を併せ有する児童生徒や重複障がいのある児童生徒の在籍が増えるなど、障がいの多様化が進み、一人一人の実態把握に基づいた障がいの特性の応じた指導が行われている。

## 課題

- ・様々な障がいを併せ有する児童生徒への適切な実態把握と児童生徒理解に基づいた指導目標・内容等の充実を図る必要がある。
- ・知的障がいの学習上の特性を踏まえつつ、児童生徒一人一人の学習状況を多角的に評価できるよう、評価の工夫を図る必要がある。

## 研究の目的と内容

- ・研究協力校と連携し、知的障がい特別支援学校における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の在り方について、授業研究を行い、指導資料としてまとめる。
- ・知的障がい特別支援学校における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を図るためのポイントを「授業づくりの工夫」、「個への配慮の工夫」、「評価の工夫」の3つの観点で整理する。



## 研究の成果と課題

### 【成果】

- ・研究協力校との授業改善に向けた協議を通して、授業改善のポイントを3つの観点から整理することができた。

研究協力校との1回目のまとめ	
授業づくりの工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 目標を焦点化し、活動を整理する。</li> <li>○ 必要なグループ編成をして指導者の配置を検討する。</li> <li>○ 指導者間で指導方法を共有する。</li> <li>○ 準備や片付け等、生徒の役割を設定する。</li> <li>○ ねらいに合わせた教材や手本を提示する。</li> </ul>
個への配慮の工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生徒一人一人に合わせた配慮の視点をもつ。</li> <li>・活動の内容 (生徒のできる活動・分かる活動)</li> <li>・活動の進め方 (集中できる量・休憩の有無)</li> <li>○ 興味に合わせた教材教具を用意する。</li> <li>○ 自己選択・自己決定ができる場面を設定する。</li> <li>○ 達成感と見通しがもてる支援をする。</li> </ul>
評価の工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 目標及び活動を明確にする。</li> <li>○ 生徒一人一人に合わせて、評価された内容や自分ができるようになったことを理解できるようにする。</li> <li>○ 他者の活動を見て、自分の活動を振り返る場面を設定する。</li> <li>○ ポートフォリオ評価等、自己評価をする際の基準を設定する。</li> </ul>

### 【課題】

- ・次年度以降、3つの観点を基にした授業改善について、実践事例をとりまとめ、広めていく必要がある。

## 授業改善のポイント

### 授業づくりの工夫

#### 目標を達成するための戦略的な計画・方法

- ・身に付けさせたい力の明確化 (単元の目標と、1単位時間の目標設定)
- ・グループ編成及び指導体制の工夫
- ・自己選択及び自己決定できる選択肢の用意
- ・考えや行動を比較する場面設定
- ・興味関心を踏まえた題材の設定

### 個への配慮の工夫

#### 児童生徒が「分かる」、「できる」活動の設定

- ・自立活動の指導との関連
- ・多様な手段で、分かる伝え方
- ・「できそうな活動の選択」、「一人でできる活動」、「支援の量」の検討
- ・ヘルプの出し方等、やりとりするスキルの活用

### 評価の工夫

#### 今が分かり、次につながる評価

- ・目標及び達成点の明確化
- ・達成度の評価
- ・次時の工夫や改善点の整理
- ・観点別評価（「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」）